

「 岐阜県発日本一、世界一 ～ 6月 ～ 」

スポーツ健康課 スポーツ振興担当

大会、競技会名 (主催者名)	成績	入賞年月日	入賞者名、団体	岐阜県との関係 (在住、出身)	大会、競技会の概要(意義)
第57回全日本学生フェンシング 王座決定戦 男子エペ(団体)	第1位	H19.6.3	朝日大 (中島・安部・伊藤)	中島大輔 4年 伊藤祐樹 4年 (羽島北高卒)	関東・関西の春のリーグ戦上位校による大会。男子エペでは、安部選手が点差を開き、学生チャンピオンでナショナルチームメンバーの伊藤選手が果敢に攻め、決勝で早稲田大学を45-38で破り、初優勝を飾るとともに、東海勢としても初の栄冠を得た。女子サーブルでは、ユニバーシアード代表に選ばれた青柳選手を中心に、常に優位に試合を進め、日本大学を45-33で破り、2年ぶり4度目の優勝を飾った。(京都府大山崎町：大山崎町体育館)
女子サーブル(団体)	第1位	H19.6.3	朝日大 (青柳・巻口・廣瀬)	廣瀬恵理加 3年 (岐阜女子商高卒)	
天皇賜杯第76回日本学生陸上競技 対校選手権大会 女子400m	第2位	H19.6.8	青木 沙弥佳 (福島大3年)	県岐阜商高卒	青木選手は400m予選1組を余裕の1位で通過し、決勝では好走するも、大会新記録の52秒32を出した丹野選手(福島大)に及ばず、53秒40のタイムで2年連続の2位となった。
女子ハンマー投	第2位	H19.6.9	武川 美香 (中京大4年)	中津商高卒	予選を山城選手(中京大)について2位で通過した武川選手は、決勝2投目でこれまでの大会新記録の58m24を投げてトップに躍り出た。しかし、山城選手が5、6投目と記録を更新し、惜しくも2位となった。
女子400mハードル	第1位	H19.6.10	青木 沙弥佳 (福島大3年)	県岐阜商高卒	予選から余裕の走りを見せる青木選手は、決勝でも他を寄せ付けず、57秒26で大会2連覇を飾った。
女子4×400mリレー	第1位	H19.6.10	福島大 渡辺・青木 金田一・丹野	県岐阜商高卒	福島大は予選5組に出場。エース丹野選手を温存して、青木選手がアンカーを務め、2位に大差をつけ順当に決勝へ進んだ。決勝では、青木選手は2走で力走し、アンカー丹野選手が2位に8秒以上の大差をつけ、3分44秒66で同種目大会6連覇を飾り、福島大初の女子総合優勝に大きく貢

大会、競技会名 (主催者名)	成績	入賞年月日	入賞者名、団体	岐阜県との関係 (在住、出身)	大会、競技会の概要(意義)
天皇賜杯第76回日本学生陸上競技 対校選手権大会 女子4×400mリレー	第1位	H19.6.10	福島大 渡辺・青木 金田一・丹野	岐阜県岐阜高卒	献した。なお、今大会の結果、青木選手は8月にタイのバンコクで開かれる第24回ユニバーシアード大会の代表選手に選出された。(東京都新宿区：国立競技場)
第54回全日本勤労者弓道大会 (おおいた国体弓道競技リハーサル大会)	第2位	H19.6.10	イビデン 安田浩祐企 西尾知子 墨 幸隆		「おおいた国体」のリハーサル大会として実施された本大会では、近的のみ実施した。28m先にある直径36cmの的を狙い、1チーム3人で各4本の矢を放って競った。イビデンは、昨年度の5位から成績を2位に上げ、平成16年度の優勝に次ぐ好成績を収めた。 (大分県佐伯市：佐伯市総合運動公園弓道場)
平成19年度前期日本卓球リーグ 所沢大会 女子一部	第2位	H19.6.10	十六銀行 朱夢軍 田勢美貴江 潮崎由香 西飯由香		4期連続の準優勝と、日本一まであと一步に迫っている十六銀行は、予選リーグを6勝1敗のリーグ2位で決勝に進出した。決勝の相手は5連覇を狙う日本生命。第2・4試合のシングル戦で田勢選手・西飯選手が勝利し、フルセットの戦いとなったが、主将の潮崎選手が藤井選手に0-3で敗れ、5期ぶりのリーグ優勝を逃した。 (埼玉県所沢市：所沢市民体育館)
第31回全日本女子パワーリフティング選手権大会	第1位	H19.6.16	加藤 みどり (きくいけ整形外科)		加藤選手は、自身の持つデッドリフトの日本新記録を更新し、トータル443.5kgで優勝し、3連覇を飾った。 これにより、10月にオーストリアで開催される世界パワーリフティング選手権大会へ出場を決めた。 (愛知県岡崎市：岡崎中央総合公園体育館)
平成19年度JOCジュニアオリンピックカップ 第5回全日本ジュニア選手権大会 女子シングルスカル	第1位	H19.6.17	星沢 知里 (東濃実高3年)		予選を快勝し、準決勝で安藤麻奈美選手(愛媛県：宇和島東高)等の有力者を抑え、8分12秒37で決勝に駒を進めた。決勝は、立ち上がり杉原参智選手(愛媛県：今治北高)にリードを許すも、逆転し見事優勝し、世界ジュニア選手権大会・アジアジュニア選手権大会の切符を手にした。 (熊本県菊池市：斑蛇口湖ボート場)

大会、競技会名 (主催者名)	成 績	入賞年月日	入賞者名、団体	岐阜県との関係 (在住、出身)	大会、競技会の概要(意義)
第33回全日本中学生レスリング 選手権大会 フリースタイル男子110kg級	第1位	H19.6.24	松野 裕也 (羽島中3年)		昨年度、決勝で涙をのんだ松野選手は1回戦、準決勝と第1ピリオドでのフォール勝ちを収め、決勝では、前川勝利選手(北海道栄高)との対戦となった。第1ピリオドは、引分けに終わったが、第2ピリオド32秒にフォールを奪い優勝した。また、53kg級の長沼選手は、76名の選手がひしめくなかを決勝まで全てフォール勝ちで勝ち抜き、優勝が期待されたが、高橋侑希選手(三重県正和高)に完敗し準優勝となった。85kg級の洞口選手は、準決勝で永井健太選手(千葉県山王高)に第1ピリオドをとりながらも、僅差で判定負けを喫した。3位決定戦では相手にポイントを許さず、優位に試合を進め3位入賞した。 (茨城県水戸市：県立スポーツセンター体育館)
フリースタイル男子53kg級	第2位	H19.6.24	長沼 克哉 (竹鼻中2年)		
フリースタイル男子85kg級	第3位	H19.6.24	洞口 幸雄 (日枝中2年)		
第26回全日本大学ホッケー王座決定戦(女子)	第1位	H19.6.24	東海学院大		準決勝で接戦の末、富士大をペナルティストローク戦で破り、強豪の天理大との決勝となった。前半に1点を先制され、なかなか点が奪えず苦しい展開の中、後半こぼれ球を押し込み同点に追いついた。延長戦でも勝敗はつかず、ペナルティストローク戦となったが、ゴールキーパーの加藤選手の好セーブによって3-2で勝利を収め、前身の東海女子大時代から通算で5年ぶり3度目の優勝を飾った。 (大阪府大阪市：長居球技場)
第91回日本陸上競技選手権大会 兼第11回世界陸上競技選手権大会 代表選手選考会 女子ハンマー投げ	第3位	H19.6.29	武川 美香 (中京大4年)	中津商高卒	1投目から順調に記録を伸ばした武川選手であったが、3投目の55m62を投げたあとは記録が伸びず、3位どまりであった。(大阪府大阪市：長居陸上競技場)

大会、競技会名 (主催者名)	成 績	入賞年月日	入賞者名、団体	岐阜県との関係 (在住、出身)	大会、競技会の概要(意義)
第91回日本陸上競技選手権大会 兼第11回世界陸上競技選手権大会 代表選手選考会 男子1500m	第1位	H19.6.30	小林 史和 (NTN三重)	中京商高卒 (現：中京高)	昨年度まで2連覇をしている小林選手は、予選を2位で通過した。決勝ではベテランらしく巧みなレース運びをした。100分の4秒内で上位3人が優勝を争うなか、3分49秒86で見事3年連続5回目の優勝を飾った。
	女子400m	H19.6.30	青木 沙弥佳 (福島大3年)	県岐阜商高卒	予選3組を54秒12のタイムで1位通過した青木選手は、決勝では丹野選手(福島大4年)、久保倉選手(新潟県立レックス)の福島大の両先輩と競ったが、及ばず3位となった。
	女子400mH	H19.7.1	青木 沙弥佳 (福島大3年)	県岐阜商高卒	優勝の期待のかかる青木選手は予選を余裕で突破し、決勝で日本記録保持者の久保倉選手(新潟県立レックス)との一騎打ちとなった。積極的な走りで今季自己最高タイムの57秒20を出したが、世界選手権参加標準B記録を出した久保倉選手に敗れ、惜しくも2位となった。 安定した強さをみせる青木選手は、男子1500mの小林選手とともに、8月に大阪で行われる世界選手権大会の日本代表選手に選ばれた。
	女子200m	H19.7.1	成瀬 美紀 (日女体大AC)	関商工高卒	昨年度、この種目で準優勝の成瀬選手は予選2位、準決勝を3位で決勝に進んだ。決勝では、23秒台に入ったものの、信岡選手(ミスノ)と丹野選手(福島大)に届かず、3位入賞となった。(大阪府大阪市：長居陸上競技場)